

平成 26 年 6 月 6 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23330057

研究課題名(和文) 中国の対アフリカ政策の学際的分析

研究課題名(英文) Analysis of China's Africa Policies

研究代表者

青木 一能 (AOKI, Kazuyoshi)

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：90099987

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,100,000円、(間接経費) 3,030,000円

研究成果の概要(和文)：平成23年度から平成25年度まで3年間の研究活動を通じて、本研究テーマの趣旨に則した情報収集・分析や現地調査を行い、予期した成果を得られたと考える。各年度において、中国、南アフリカ、台湾からの研究者を招いてワークショップを開催し、本研究のメンバー全員は参加し、報告した。日本国内では、研究会を開き、研究の進捗や途中経過報告などを行った。3回にわたって述べ8カ国(南アフリカ共和国、ボツワナ、マラウイ、ナミビア、レソト、タンザニア、ルワンダ、ウガンダ)にて現地調査を行った。

また、アフリカに関する著作を出版する予定し、論文を学術誌に発表することによって、日本社会に還元することができる と確信する。

研究成果の概要(英文)：Over the course of three years of research conducted from 2011 through 2013, We collected and analyzed information on our research topic, as well as implementing local surveys, which yielded the expected results. For each of the academic years of this period, we invited researchers from China, South Africa, and Taiwan to participate in workshops, in which all researchers involved in the project participated and presented. In Japan we also held research study groups where participants reported on their progress and interim findings. We conducted research locally a total of three times in eight countries (South Africa, Botswana, Malawi, Namibia, Lesotho, Tanzania, Rwanda, and Uganda). We hope to render this research useful to Japanese society by publishing work on Africa, including our thesis in academic journals

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：対外政策論 政策論 中国 アフリカ エネルギー 資源

### 1. 研究開始当初の背景

現代において、アフリカはかつてない国際社会の関心を集めている。一方には、貧困、飢餓、紛争、HIV/AIDSをはじめとする感染症等、「アフリカ問題」と総称される多くの課題があり、それはテロや難民といった形で国際社会に負の影響を及ぼしている。その一方で、アフリカには原油や貴金属をはじめ、レアメタルと呼ばれる希少金属が埋蔵されている国も多く、2005年ごろから顕著となった資源や食糧の価格高騰は、「最後のフロンティア」としてのアフリカに対する関心を高めている。これらに基づき、21世紀の今日、アフリカに対する関心は高まる一方である。その中で、既に述べたように、中国のアフリカ進出が国際社会の関心を集めている。世界の経済大国となる中国にとって、食糧およびエネルギー・天然資源分野を中心に、アフリカの重要性は当面衰えるところを知らないとみられる。しかし、アフリカにおける中国のプレゼンスが拡張することは、欧米諸国からの警戒をも招いている。人権保護や民主化といった政治的領域への関与と、貧困削減を中核とする支援にシフトしている欧米諸国からみて、少なくとも公式には相手国の内政に関与せず、マクロな経済成長を最優先に掲げる中国の台頭は、アフリカにおける政治的腐敗と貧困の蔓延を助長しかねない存在である。欧米諸国から自国民に対する人権侵害の指摘を受けるスーダン政府に対して中国政府が石油開発で協力することに、国際的な非難が寄せられたことは、記憶に新しい。これらを背景に、欧米諸国では中国のアフリカ進出に関する研究が急増しているが、その多くは以上の否定的な要素を強調する傾向がある。

もちろん、これは故なきことではないが、他方でイデオロギー的バイアスが強くなれば、中国の対アフリカ政策の全貌を解明する妨げになることは、いうまでもない。翻って

我が国では、先述のように、中国・アフリカ関係に対する関心の高まりに関わらず、包括的な研究はいまだない。したがって、中国人研究者を加えて、中国の対アフリカ政策を政治、経済、文化などの各面において実証的に分析を行うことは重要な意義がある。

### 2. 研究の目的

今日、中国のアフリカ進出が著しいことは、広く知られている。中国は他国に先駆けて、冷戦期の1960年代からアフリカ諸国と政治的協力関係を構築してきたが、現代ではこれに加えて経済関係の強化が顕著である。経済成長著しい中国の食糧および天然資源の輸入量は増加の一途を辿っており、それに比例して対アフリカ投資・貿易が拡大するなど、双方の経済関係は急速に発展している。既に述べたように、著しい経済成長を背景に食糧およびエネルギー・天然資源の供給源の多元化を求める中国は、21世紀に入り、アフリカへの接近を試みている。しかし、その動向が国際的な関心を集めているにもかかわらず、中国の対アフリカ政策に関する研究は乏しく、寡聞にして聞かない。その意味で、経済だけでなく、政治および文化面のアプローチから、中国の対アフリカ政策を検討する本研究は、我が国における中国研究及びアフリカ研究の双方からみて、有意かつ野心的な取り組みと確信する。

### 3. 研究の方法

本研究は、既述のように、中国の対アフリカ政策の分析を主要な課題としていることから、日中両国研究者の共同研究会実施を柱とし、メンバー以外のアフリカ研究者を交えてワークショップを実施する。

また、アフリカにおける諸政策の形成において、中国の現地調査をも行い、学术交流関係にある北京大学国際関係学院や浙江師範大学アフリカ研究院などを研究・調査の拠点とし、一部の政府機関の協力を得て、調査研

究を行うこととする。

加えてアフリカにおいて中国や日本の政策評価のための現地調査を行う。現地の JICA 事務所をはじめ、金融機関を含めた現地中国企業、さらに現地 NGO などでのヒアリングや情報収集を行うこととする。

#### 4. 研究成果

本研究の開始年度にあたる平成 23 年 12 月 9、10 日の二日間にわたったワークショップは、日本側研究参加者 4 名、中国側研究者 4 名( 浙江師範大学アフリカ研究院劉鴻武教授、趙俊副研究員、雲南大学アフリカセンター張永宏教授、北京大学国際関係学院劉海方准教授、)の報告がなされ、それに基づく活発な意見交換がなされた。なお、この報告は小冊子『中国の対アフリカ政策の分析 第一回国際ワークショップ報告書』としてまとめた。

また、本研究メンバーの 3 名が平成 24 年 2 月 4 日から 2 月 12 日までに南アフリカ共和国およびボツワナへ調査に赴いた。現地での訪問先は以下の通りである。ボツワナでは、中国人卸業者の拠点であるオリエント・ブラザを見学し、日本大使などと面談した。南アでは、SAIIA ( South Africa Institute of International Affairs ) で Ana Alves 研究員以下 3 名と AISA ( Africa Institute of South Africa ) で M.P. Matlou CEO 以下 4 名と意見を交わした。また、プレトリア大学日本研究センターで長田雅子企画調整官と、中国銀行ヨハネスブルク支店で Zhikun Qiu 支店長と面談した。

現在の中国の影響力の浸透及び中国人コミュニティの現状について各種の研究活動を行った。これらの活動を踏まえた報告は上記ワークショップのまとめの中に収録されている。

二年目にあたる平成 24 年度の本研究活動は、研究参加者各自の研究分担テーマに関する情報収集・分析活動は無論だが、全員参加の下で第二回国際ワークショップを開催し

た。平成 24 年 12 月 15 日に開催したワークショップでは、日本側研究者 4 名、南アフリカ側研究者 2 名の報告がなされ、それに基づく活発な意見交換がなされた。なお、この報告は小冊子 “Analysis of China’s Africa Policies” としてまとめた。本研究の趣旨に十分即した報告・討論がなされたと考える。

平成 24 年度において、現地調査は 2 回にわたって行った。平成 24 年 9 月 6 日から 19 日にかけて、本研究メンバーの 2 名が南アフリカ共和国、マラウィ、レソトおよびナミビアへの調査に赴いた。現地の中国人マーケットの視察、レソト、マラウィの研究者や政府関係者への聞き取り調査、資料収集を行い、また、駐マラウィ日本大使館や JICA 事務所を訪問して同国に対する日本のアプローチに関する情報収集を行った。

また、平成 25 年 3 月 6 日から 15 日にかけて、本研究メンバー 5 名がタンザニア、ルワンダ、ウガンダで現地調査を行った。主な訪問先は上述の 3 カ国の日本大使館で大使をはじめとする会合、JICA 事務所において所長を中心にした会合で、日本と 3 カ国との協力関係について詳しい情報を得ることができた。さらに、ルワンダ国立大学の研究者 Dr. Vincent BYUSA、ウガンダのマケレレ大学の研究者 Dr. Sabiti Makara などと意見交換を行った。その他、タンザニアにある中国商会副会長、ルワンダにある東アフリカ中華総商會会長への聞き取り調査を行い、アフリカにおける中国のプレゼンスおよび中国人企業の現状について各種の研究活動を行った。

本研究(「中国のアフリカ政策の分析」)の最終年度にあたる平成 25 年度の研究実績としては、まず従前通りに研究参加者による研究報告会を 3 回行った。その間、各研究分担者・協力者ともにテーマに沿った情報の収集・分析にあたり、各々の分担テーマについての進捗を図った。また、研究開始後 3 回目を数えるワークショップを平成 26 年 2 月

24, 25日の両日開催した。今回のワークショップには中国から2名、台湾から1名のアフリカ研究者を招き、日本人研究者1名と併せて報告が行われ、参加者間での議論も活発に行われた。なお、報告者のテーマは周志発浙江師範大学アフリカ研究院副研究員が「中国の対アフリカ価値感外交の欠如と対策研究」、中国社会科学院賀文萍研究員が「ソフトパワーの構築は対アフリカ外交の核心」、台湾国立政治大学嚴震声教授が「中国のアフリカ進出のロードマップ」、そして六辻彰二・横浜市立大学講師が「FOCACの変遷とその背景について」であった。これらの報告で提出された研究論文の全文および質疑応答、総括部分の私のまとめなどを収録して冊子として刊行した(平成26年4月25日)。結果、本研究3年間においてワークショップで報告した研究者は、中国6名(他論文提出による参加者2名)、台湾1名、南アフリカ2名となり、日本側の報告者のべ10名となった。各年度ごとにワークショップで開陳された研究報告は各々冊子として刊行したことになる(日本語版2冊、英語版1冊)。今後の近い将来、それらの研究成果は私の編集の下で出版物として上梓する予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

段 瑞聡 「1950～60年代中国とアフリカ関係における台湾要因」『中国研究』(慶應義塾大学)査読あり 第7号 2014年、91 - 120

六辻彰二 「ガーナ第四共和制における二大政党制の発達とその背景：1992年2008」

『拓殖大学論集：政治・経済・法律研究』  
査読なし 第15巻第2号 2013年、103 - 132

青木一能 「アフリカに拡大する中国の

プレゼンス」『アフリカ』(アフリカ協会) 第5巻 査読あり 2013年、18 - 23

青木一能 "Japan and the TICAD Process" *SAIIA Policy Briefing* 第66巻 査読あり 2013年、1 - 4

六辻彰二 「『産油国』ガーナの現状と二重の課題 『アフリカ』(アフリカ協会) 査読あり 第51巻 2011年、44 - 53

〔図書〕(計1件)

青木一能 『これが、アフリカの全貌だ』  
かんき出版 2011年、288

〔その他〕(計23件)

ホームページ等

辻 忠博 「法の支配は海外直接投資にどれほどの影響を及ぼすのか—サブサハラアフリカと東アジアの比較分析—」  
『IAM e マガジン』(特定非営利活動法人アジア近代化研究所) 査読なし 第8号 2014年 1 - 14

六辻彰二 「FOCAC の変遷とその背景について」101 - 124

以上の論文は、日本大学文理学部総合文化研究室により2014年3月に刊行した『中国の対アフリカ政策の分析』(第三回ワークショップ)に収録された。

Kazuyoshi Aoki "Africa and China" 1-8

Tadahiro Tsuji "A Comparative Study on Development Aid Policy to Africa in Japan and China" 43 - 68

Shoji Mutsuj "Party-to-party relations between China and Africa" 115 - 134

Duan Ruicong "Taiwan Factor in Sino-African Relations from 1950s to 1960s: Focus on Two China Policy and PRC's Membership of the UN" 135 - 162

Hidematsu Hiyoshi "Study of the African village in Guangzhou" 163 - 172

以上の論文は、日本大学文理学部総合文化研究室により2013年3月に刊行した "Analysis of China's Africa Policies :The Papers Presented at the

Second 'Analysis of China's Africa Policies' Workshop held at Nihon University, Tokyo 14, December, 2012 に収録された。

青木一能「アフリカに対する国際的アプローチの現状と日本の対応」1 - 56

六辻彰二「ガーナにおける中国の進出その受容と警戒」79 - 100

段 瑞聡「1950～60年代中国とアフリカ関係における台湾要因 『2つの中国』と中国代表権問題を中心に」101 - 130

日吉秀松「中国の対アフリカ関係の拡大と内政不干涉」131 - 148  
149 - 164

林 幸博「日本の技術移転協力の現状 - 特に、アフリカ諸国の農業分野において - 」  
165 - 174

新海宏美「中国・アフリカ貿易・投資状況の分析 エネルギー供給を中心に」  
193 - 210

李安山 他 1 名「中国アフリカ協力フォーラム運営メカニズムおよび展望について」211 - 230

以上の論文は、日本大学文理学部総合文化研究室により 2012 年 3 月に刊行した『中国の対アフリカ政策の分析』（第一回ワークショップ）に収録された。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

青木一能 (AOKI, Kazuyoshi)

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：90099987

### (2) 研究分担者

林 幸博 (HAYASHI, Yukihiro)

日本大学・生物資源科学部・教授

研究者番号：90277400

水野正己 (MIZUNO, Masami)

日本大学・生物資源科学部・教授

研究者番号：80356295

水嶋一雄 (MIZUSIMA, Kazuo)

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：00096918

辻 忠博 (TSUJI Tadahiro)

日本大学・経済学部・教授

研究者番号：00236879

段 瑞聡 (DUAN, Ruicong)

慶応義塾大学・商学部・教授

研究者番号：00317083

新海宏美 (SHINKAI, Hiromi)

日本大学・経済学部・准教授

研究者番号：00339227

日吉秀松 (HIYOSHI, Hidematsu)

日本大学・文理学部・助教

研究者番号：40546272